

「なんで言ってくれないの？」

こぎつねのぽてと紡ぐ、親子対話の新しい物語

🍃 こぐまのことはメソッド

読者が目指す未来

心と心が響き合う、あたたかな対話のある家庭

響き合う言葉が、子ども的一生を支える

素直な自己表現

子どもが自分の感情に名前をつけ、困ったときに「助けて」と言える信頼関係。言葉でつながる安心感。



現状の課題

沈黙と爆発。伝えられないもどかしさの連鎖

言葉にできない「心の中の嵐」



「なんで？」の問い詰め
理由を聞いても黙り込む子どもに、ついイライラ。問い詰めがさらに子どもを閉ざしてしまいう悪循環。



行動による爆発
伝えたいのに言葉が見つからない。その葛藤が、かんしゃくや乱暴な行動として噴出する悩み。



深まる心の溝
「わかってほしい」子と「言わないとわからない」親。すれ違いが親子の絆を少しずつ削っていく。

潜在ニーズ

「翻訳者」としての親に、抱きしめてほしい

感情に「名前」をつけてもらう安心感

「自分をわかってほしい」という切実さ
子どもが求めているのは、解決策ではなく「自分の心の中
で起きていること」への理解です。

正体不明の嵐（感情）に、親が「悔しかったんだね」と
名前をつけてあげること。その瞬間に、子どもは暗闇の
中でパッと光を見つけるような、**絶対的な安心感**を
得るのです。



物語の鍵：気持ちの代弁

親が子どもの「心の翻訳者」になる魔法

物語の鍵： 気持ちの代弁

子どもは心の中の嵐をどう呼べばいいか知りません。親がその気持ちを「代弁」してあげること。これが未来を変える唯一の鍵です。

「悲しかったね」「頑張ったもんね」という言葉のシャワーが、子どもの脳の感情制御システムを育て、爆発を「対話」へと変えていきます。

こぎつねのぽてが、その魔法を伝えます。



「代弁」がもたらす親子の物語の変化

紹介項目	みんなの体験談	親の視点・喜び	未来の物語がこう変わる
感情のラベリング	「悔しかったんだね」と言った瞬間、子がスッと落ち着いて話し出した。	子の不機嫌の正体が分かり、育児のイライラが「共感」に変わった。	自分の感情を客観視できるようになり、かんしゃくが劇的に減る。
対話スキルの向上	「悲しかったから、一緒にいて」と言葉でリクエストできるようになった。	子の語彙力が伸び、親子の会話が毎日楽しく、奥深くなった喜び。	「助けて」と言える力が、一生モノの生き抜く武器になる。
安心の土台作り	「パパ・ママは分かってくれる」という信頼が深まり、反抗が穏やかに。	家庭が、お互いを尊重し合える「心の聖域」になった達成感。	自己肯定感の根っこが太くなり、困難に負けない心が育つ。

言葉は、脳と心を育む最高の知育

100%

の肯定感から始まる成長

論理的な思考の基礎作り

感情を言葉に変換するプロセスは、脳の前頭前野を発達させます。これは単なる会話術ではなく、将来の**自己抑制能力**や**問題解決能力**に直結する、最高級の知能教育です。

日々のささいな「代弁」の積み重ねが、子どもの一生を支える知能のストックになります。

こぎつねのぽての一言

“ 子どもはね、自分のなかの嵐のような気持ちを抱きかかえて、まだ知らないだけなんだ。きみがその嵐に「悔しかったんだね」って名前をつけてあげた瞬間、言葉は心を守る魔法の盾になるんだよ。

— こぎつねのぽて



未来の対話へ

きみの色、あたたかな言葉で見つけにいこう。

<https://www.kogumanokotonoha.com/>

Image Sources



Thumbnail

for

https://www.lemon8-app.com/seo/image?item_id=7518422450435080710&index=0&sign=3280c7add7e7888990996121d8cdf3c

Source: www.lemon8-app.com



Thumbnail

https://www.lemon8-app.com/seo/image?item_id=7558291687181779512&index=0&sign=5af4c4d833d689add55fd3f5e7bda7fc

Source: www.lemon8-app.com